



令和二年度を振り返って



竹韻社社主 初見 宗郷

発行所
琴古流尺八竹韻社
ひたちなか市西大島2-3-22
電話 029-273-9144



竹韻社社主 初見 宗郷

二年度は、新型コロナウイルス禍で、三月からの活動が全て中止になりました。また、四・五月の尺八教室自粛の時には、会員との交流もできなくなり、不毛の時を迎え、希望の見えない最悪の状況となりました。

年初めの二月までは、活動できましたので紹介します。昨年引き続き、一月二日に水戸市イオンモールで宗郷・佳秋新春コンサートを行いました。午前・午後一回ずつの三十分コンサートで、「春の海」、「六段の調」、「風によせる三つの前奏曲」、「パブリカ」を演奏しました。特に、最後の「パブリカ」では、孫のダンス特別参加とともに会場のお子さんも加

わり、大いに盛り上がりました。一月十九日にひたちなか市主催の伝統文化子どもフェスティバルに参加しました。「祭花」、「Lemon」、「打上花火」を演奏しましたが、どの曲も素晴らしい演奏を披露してくれました。二月九日に、ひたちなか市文化協会主催の春の祭典に参加しました。今年は邦楽連盟代表として、初見宗郷社中が山本邦山



作曲「陰陽句」、荒木古童編曲「越天楽の曲」を演奏しました。今回は埼玉地区も参加され、総勢二十四人で迫力のある演奏ができました。六月からは、稽古の再開はできましたが、多くの会員が参加する定期演奏会をはじめ、合奏研修会、本曲研修会、昇格試験などあらゆる活動を中止にせざるを得ませんでした。以上二年度は、新型コロナウイルス禍に翻弄された一年でしたが、三年度は、早い新型コロナウイルスの終息に期待し、通常の活動ができることを願うばかりです。



特集記事

掲載にあたって

新型コロナウイルス感染のため活動ができませんでしたが、二年度の竹韻誌の原稿が不足す

- ①演奏時の心構え
- ②私の稽古方法
- ③特に勉強したいと思うこと
- ④合奏の難しさとは
- ⑤近況報告
- ⑥その他

私の尺八変遷

竹韻社社主 初見 宗郷

幼少の頃から、父宗郷が弟子さんに教えている尺八の音を聴いているせいか、自然と古曲のメロディに馴染んでいたと思います。十歳の頃、父から短い簡易尺八を預けられ、遊び半分で音を出していた記憶があります。初心者に見られる音が出ないというのではなく、音出しの苦勞はなかったと記憶しています。

本格的に尺八に接したのは、中学生になってからでしたが、父からの指導を受けた記憶はなく、月に一度位か、義兄の前理事長笹本宗秀師に教えていただきました。義兄は裏め上手で、

私のやる気を起こしていただき、感謝しています。

演奏会デビューは、中学一年生で、「千鳥の曲」を演奏しました。二年目は、「楓の花」を一人吹きで演奏しましたが、緊張を持続するのが苦痛なのか、早く曲が終わらないかと思いつつ吹いていた記憶があります。そして、高校受験、大学受験時にも、勉強に疲れると尺八を吹くといったように尺八に馴染んでいたようです。

尺八に虜になったのは、大学に入ってからでした。今でもはつきりと覚えていますが、「新浮船」への取り組みです。父が演奏した録音テープを小刻みに何百回と聴き、スリ、オリ、抑揚などどのような時に入れているかなど分析したことにより、地頃の吹奏法をマスターしたと思っています。また、「尾上の松」の練習ですが、強烈な思い出があります。夏休み、朝から毎日連続十回、練習したことです。オーブンリールテープにブクの演奏を十回分録音しておき、それに合わせて二時間通しの練習をしたことです。その甲斐あってか、その年の演奏会では「尾上の松」を暗譜で演奏することができました。父は内心、息子の姿勢にほくそ笑んでいたのではないのでしょうか。また、大学の邦楽サークルに入部した



のも良かったと思っています。サークルは、都山譜の新曲が主流でした。古典は、左右に刻む「大間拍子」ですが、新曲は上下に刻む「小間拍子」でしたので、都山譜と間取りに苦労しました。その頃、ブコの山口五郎、青木静夫、横山勝也、山本邦山氏の活躍により、尺八ブームになっていました。多くの部員で、東京までリサイタルを聴きに行つたものでした。また、部室で夜中まで練習するなど「尺八気狂い」の仲間が増え、サークルのレベルもかなり向上していました。この頃の高密な練習が財産になったかと思えます。

四十歳の頃、琴古流尺八協会の奨励演奏会に出演した機会に、「私の稽古法」と題して琴古流創立二十周年記念誌への投稿を依頼されました。今読んでみる

と何らかの参考になるかと思ひ、次に紹介します。

「若い頃には、持続力を養うために、演奏会曲目を十回ほど連続に録音しておき、テープに合せて吹いておりました。現在では、短時間で効果的な練習を心掛けております。曲のフレーズ感をいかに出すか、曲の流れの中で自分の特徴をどの部分に生かしていくか曲を分析することから始まります。この分析によって、息継ぎ、強弱及び音の軟硬を区別し、自分のイメージに合うまで小刻みに曲を仕上げから全体練習を行う様にしております。」

この文を読んで、年齢によって稽古法が変わってきたことに気が付きました。ここ十年は、音色を如何に良くするかを念頭に尺八を吹いています。具体的には、究極の腹式呼吸の会得です。腹式呼吸が甘いと、どうしても口先の呼吸に陥り易くなります。吹奏中に腹式呼吸に戻すにはどうするかなど、模索しています。

コロナ禍においては、自由時間が増えている中、どうしても楽な方向に陥り易いと思ひ、自分に試練を課しています。本曲「一二三鉢返し・虚空鈴慕・霧海渡鈴慕・真虚霊・波間鈴慕・志図の曲」の中から、毎日二曲、二尺三寸管、二尺一寸管、二尺

管、一尺九寸管など長管で吹き、腹式呼吸に役立てています。そして今年の演奏会曲目「若菜」の三回吹奏も心掛けています。この果籠一年は、自分にとって尺八の吹き方を見直すことができ良かったと思ひますが、コロナ禍から早く脱し、自由な幅広い活動ができることを願うばかりです。

近況報告

理事長 遠藤 宗彰

昨年は、新型コロナウイルス問題で予定されていたコンサートや発表会が中止となり、さらに四月、五月は、稽古も休まざるえなくなり、六月から再開はし

ましたが、お筆との合奏もままならず、時間だけが無駄に過ぎていきます。

そこで、昨年の予定だった本曲練成会の曲「波間鈴慕」と「志図の曲」を一年間掛けて練習致しました。例年ですと同じ曲を一年間掛けて勉強できず、曲目を深く追求することができませんでしたが、今回の経験で尺八曲目に対して今まで見えなかったものが漠然とですが見えてきたように思います。一曲集中の練習は大変勉強になったと思ひます。本曲の研鑽は、琴古流を志す者にとって大事なことだと思ひました。

私の住んでいる春日部市でも、新型コロナウイルス感染状況は、埼玉県でも上位五本の指に入るほど広がっています。予定されていたコンサートや定期演奏会も全部中止になり、公共施設も使えなくなりました。早くコロナが沈静化してもらいたいものです。

今年六月に五十年続けてきた仕事にピリオドを打ち、第二の人生を築しむはずでしたが、それもお預けです。妻の趣味の御朱印集めのお供で旅行を計画していたのですが、それもしばらくは我慢です。今はひたすら尺八本曲の研鑽です。早くいつも通り発表会やコンサートが出来る様になったらと思ひますが、



今の所コロナが収まる様子は無いようです。今はひたすら我慢の時間が続くかと思えます。会員の皆さん、練習を怠らず、今はしっかりと力をつけて下さい。そして次回の発表会にはそれを爆発させましょう！

私の尺八への取り組み

武藤 宗林

竹韻社の皆さん、コロナ禍の中で如何お過ごしでしょうか。

コロナ騒ぎの三月以降、演奏会等も中止になり、見通しも立たない中、モチベーションを保つのが難しい状況ですが、皆さんはどのように尺八に向き合っているのでしょうか。

私は、令和二年六月に、家内との第四回DUOコンサートを行う予定でしたが、見送りました。一年後あるいは二年後にできるかどうか…。それまで、意欲を保てるか、年齢的な限界で出来るかどうか等々悩み多きこの頃です。

一練習は、一日休むと自分いわかり、二日休むと批評家にわかり、三日休むと聴衆にわかる。」の名言がありますが、尺八の場合、練習を休むと鳴りが悪くなり、音色も悪くなるのは本当ですね。一日休むと取り戻すのに二日はかかります。何故このような状況になるのか、正



確にはわかりませんが、恐らく呼吸法の状況や口の中状況、さらには口の周りの筋肉の状況が変わるからだと思えます。やはり、毎日訓練、精進することが上手くなる秘訣かもしれません。

練習では、例えば一日一時間練習する場合、一時間練習するのを一回やるよりも、三十分を二回するほうが効果が上がると思っています。私の場合、まだ仕事をしていますので、十分な練習時間が取れませんが、朝起きてから朝食までに、三十分ほど練習します。調子の良い時も悪い時もありますが、いきなり曲を吹きます。音出しは余りしません。師匠との稽古や演奏会の出番では、直前に音出しはできません。それを念頭に置いて、音の立ち上げがすぐできるように日頃から心掛けています。夕

食後の夜の練習は、三十分のときもあれば一時間のときもありです。演奏会等が近い時は、もう少し真面目に練習します。練習後、風呂に入ってから飲むビールは最高です。食事の時の晩酌は、ほとんどしません。

稽古に身が入らないときや気乗りしないときは、メトロノームを練習のお供にすることも一案です。また、CD等の音源と合奏するのも緊張感が出て効果的だと思います。皆さんも工夫してみてください。

一日も早く、コロナが収まり、以前のように心置きなく演奏会ができる日が来ることを願っております。皆さん、今のうちにレベルアップを図り、「別人28号？」になりましょう。

キリマンジャロ登頂記

前田 宗園

新型コロナウイルスの第三波が拡大する中で書いていますが、母が十月に他界し四十九日を過ぎた今、世界中に感染拡大する前とはいえ、よくもまあアフリカまで行って登ってきたなという思いです。

母は、要介護度五の認知症で、施設のデイサービスを受けながら、私と姉弟の三夫婦が交替で介護に当たってきました。十一月末誤嚥性肺炎に罹り、在宅で

医師・訪問看護師による点滴治療が始まり、年が越せるかなという状況でした。尺八の稽古も十二月から当分お休みをいただくことにしました。その後医療スタッフの懸命の看護で奇跡的に持ち直し、食事を摂り室内を歩けるまでになり、一月からは施設のデイサービスを再開できるまで回復しました。

その頃、十年越しの憧れ「キリマンジャロに登りたい」という思いが強くなって、姉弟の了解をもらい、二月七日から十日間「ゆつたりキリマンジャロ登頂」ツアーに参加しました(当時日本は、ダイヤモンドプリンセスで感染者が発生隔離の段階)。

参加に当たり、四年前から睡眠時無呼吸症候群の治療をしていく旨申告したところ、治療器具(CPAP)の持参が条件で、



ロッジには電源がないということでした。不参加となるとキャンセル料(二割十万円)が発生するので、必死で主治医にお願いし、「短期間ならCPAPの使用がなくても問題ない」との診断書をもらい、参加OKが出ました。

キリマンジャロは、ピークが五八九五mで、五千mを超えると酸素が地上の半分以下になり、高山病対策として、東京の低酸素室で高所テストとトレイニング(四五〇〇〜六千m)を受け、血中酸素と脈拍数の変化を見ながら、高山病の兆候の自覚や呼吸を意識的に腹式で行うこと、こまめな水分補給の大切さを学びました。

参加メンバーは十五人(男子、女五)、平均年齢は六十台前半。半数以上が百名山踏破。ホノルルマラソン十回以上など錚々た

るメンバーでした。

三日目から登山開始(登山口一八二〇m、マラングルート)。キリマンジャロを遠くに眺めながら、一日に千mずつ高度を上げ、途中、ジャングルの樹林帯でブルーモンキーや幸運のカメレオンに出会い、三千mを過ぎると巨大化したジャイアントセネシオの群生が登場し、ここはアフリカ、キリマンジャロだと実感しました。頭に荷物を載せて歩く地元のポーター達と行き交うときは、ジャンボ(こんにちは)と声を掛け合い、ジャンボを連呼していると思慮と元気が出てきました。

ホロンボハット(三三二〇m)に連泊して高度順応。一日二回血中酸素と脈拍数を測り、数値は安定し順調そのものでした。ロッジでの食事は、テーブルにキリマンジャロコーヒー(ティー)。朝食はおかゆで、野菜果物がふんだんにあり、昼食は弁当形式、夕食はポリウム満点で、女性添乗員の計らいでちらし寿司がふるまわれるなど、美味しくいただきました。しかし、段々胃腸がくたびれ食が細り、登頂後食事に出てこない人が何人かいました。

いよいよギボハット(四七〇三m)に到着。軽食をとり四時間の仮眠後、出発前の緊張の中間測定した血中酸素(平常値九

八)は意識的に呼吸しても七〇

台に落ち(六〇台前半で即刻下山)、脈拍数(平常値六〇台)は八〇以上に上がっていました。夜十一時過ぎ、真暗い中をキリマンジャロへのアタック開始。ここから登頂までに一二〇〇m登り、酸素が薄いので速やかにギボハットに戻り、昼食休憩後ホロンボハットに下山するハードな行程(十八km、十二〜十四時間)でした。ブライベートポーター(五〇ドル)を雇い、荷物をすべてPPに預け、隊列を組み、ヘッドランプで足下を照らしながら、五〇分登り十分休みのペースでゆっくり登っていききました。

砂礫帯をジグザグ登り二回休憩を取り、五〜六〇〇m登ったあたりで隊列が進まなくなり、その時、自分のペースになってきた。この調子なら山頂(ウフルピーク)まで行けると思いました。ところが、徐々に自分も呼吸が苦しくなってきた。すぐ後ろのPPがしきりに「頑張れ休みな」と怒鳴っているせえなど思いました。そのうち、しゃがみ込んで軽く吐きました(茨城から持参した干し芋を食べ過ぎたのが原因か)。

それからはガイドが付いて、三人でガレ場を休み休み上を目指しました。事前説明会で、キルマンズポイント(五六八一

m)まで登れば「登頂証明書」

をもらえることは聞いていたので、ふらふらになりながら隊より一時間近く遅れて朝六時頃キルマンズポイントに到達。辺りは一面の銀世界。ウフルピークまでは標高差二〇〇m、往復四時間。数年後にはなくなると言われているレブマン氷河を眺められないのは残念だが、体力を消耗しており、また、主治医には決して無理をしないと約束しており、三人で写真を撮り休んだ後、下山しました。

アフリカの宝石キリマンジャロさらば!またひとつ冥土の土産ができた。

1010年を振り返って

遠藤 芳影

二月の上旬に、ひたちなか芸術祭がありました。新型コロナウイルスの拡大で、その後の演奏会はすべてなくなっていました。

昨年までは演奏会に向けて稽古して、会が終わると次の曲目に取掛ります。そうだったパターンのように、今年も一曲だけに集中して練習を積み重ねてきました。

私自身演奏会では、後半になると音が出てくなくなってしまいます。スポーツ選手が後半の疲れが出るように、スピードやタ



右腰周辺に帯状疱疹が発生し翌週食欲不振により体調が悪化、血液検査の結果、即点滴治療入院となりました。着の身着のままの入院でしたので連絡もできず申し訳ございませんでした。秋の行事が集中している時期、病院から先生宅への行事欠席連絡が精いっぱいでした。また、皆さんに「竹韻広報誌原稿」依頼をしたままで大変失礼致しました。これも初見先生に全面頼る以外ありませんでした。本当に情けない話で、お許しください。

イムが落ちてしまうのを最小限に押さえるため、筋トレなどで成績が良くなったとのことでした。

尺八の吹奏も、正しい呼吸で曲の後半まで吹き続けるには、普段はあまり意識して使っていない呼吸筋を、常々使う練習を積み重ねて、長い曲目でも終わるまで変わらぬ音で吹き切れるようになればと思っています。

私の近況報告

所 秀郷

今日は、大変な時代になってしまいました。いかがお過ごしですか。恥ずかしながら、近況報告させていただきます。

去年(令和元年)の十月末、



新年度になると新型コロナウイルス感染症拡大騒ぎが発生、次々と行事予定が中止となり、挙句は稽古も当分の間止めるとの連絡も、テレビでは家庭内果籠状態のニュースが報じられておりました。何故かこの時、特訓を重ねた「鶴の巣籠」を懐かしく思い出して、半年以上となりますが尺八を吹いてみました。体調の影響も少しはあったと思いますが、全く惨めな音でがっかりしました。

この頃からふくらはぎが張って痺れ始め包帯を巻かなければならなくなり、腫れて靴がはけなくなってしまう困ったことになりました。二・三週間後には腫れが軽くなりましたが、痺れが残る外出すると無理がかかり「果ごもり生活」がわが身にもやってきたようでした。尺八を吹く正しい姿勢とは逆に、前屈みに背中を丸めないと神経への影響が出てしまいます。でも、音のほうはまだですが、少しは良くなってきている気がします。

血液検査では問題ないとの事で、これからは神経痛と仲良く付き合ひ、入院して知り得た体に重要な食生活に気を配り、皆さんと一緒に演奏できるように願ひながら、頑張っていきたいと思っています。

伝統文化を学ぶ

根本 倫成

私は今伝統文化に関わる活動を二つ楽しんでます。一つはもちろん尺八の稽古ですが、もう一つは六十年以上続けている剣道の稽古です。途中仕事の関係で十分稽古のできない時期もありましたが、何とか七段まで昇段できました。最近ではアニメ「鬼滅の刃」に触発され、剣道を始め児童生徒が多いと聞いています。私の場合は昭和三十二年頃放送され、竹刀を打ち合う音で始まるラジオドラマ「赤胴鈴之助」に大いに心動かされました。そこで旧制中学時



代剣道をやっていた父に剣道をやりたいと話し、素振りなど基本を教わったのが剣道修行の始まりでした。尺八と同じく終わりのない修行の道です。

現在大人の稽古が昼間週二回、水戸二高へ週一回、地元笠原中へ原則週三日指導に行っています。笠原中は水戸市教委から正式に部活指導員として依頼を受けています。

このようなわけで、現在はまだ剣道を教えるのが仕事になっています。今年私は後期高齢者となりましたが、剣道のお蔭か毎日元気に活動しています。正に継続は力なりという言葉の意味を実感しています。日本の「道」という習い事全てにおいて守・破・離という言葉が修行の段階を表す言葉として使われています。その中の離は一流一派の境地に達する段階と説明されます。私は尺八の稽古においても剣道の稽古においてもまだまだ離の境地には程遠く色々なことに挑戦する破の段階であると思っています。

しかし、日本の伝統文化である二つの道において、私は多くの人と出会い、共に修行に励み、互いに高めあっているのではないかと思います。そして「我以外皆師」という言葉を胸に秘め、これからも文武両道において稽古に励みながら楽しき人生を送

私の一年

宮原 宗山

今まで長い月日の流れの中で、東日本大震災、原発事故等色々な恐怖を経験して来たが、今回のコロナウイルスにはいずれも及ばない恐ろしさであるように感じる。目に見えない敵（ウイルス）がこれ程まで人間を怖がらせるとは自分自身初めての経験のように思っている。世の中の活動が一部止まってしまい、これからどうなってしまうのか一寸心配になることがある。

竹韻社の行事も四月の本曲練成会以後すべてが中止となってしまった。今までは、研修会、リハーサル等で皆に会える機会があったが、今は近況を話し合う事も出来ない。

四年前に初めたボランティア活動は、週に二度程の頻度で施設を訪問し、夏には夏祭、秋には敬老会、そば祭等の行事に依頼され演奏して来たが、三月以降はまったく無くなってしまった。

最近のニュースでは、ワクチンが完成したとのことであるが早く一般の人々に配布されることを願ひ、コロナウイルスから解放される日を願ひ毎日である。

りたいと思います。



コロナ禍に遭遇して思うこと

福元 宏郷

師走になり、県内で四日には八十五人が新型コロナウイルスに感染していることが確認され、さらには全国的にも日々最多を更新するなど感染拡大に歯止めがかからない状況が続いています。専門家は現状について、新規感染者数の減少に成功していないとの認識を示し、まだ拡大傾向で先々の見通しがかんない状況です。

人類の歴史は感染症との戦いであつたといわれていますが、戦争も経験していない我々の世代にこれほど世界中に蔓延する感染症禍に遭遇するとは全く想



像していませんでした。コロナ禍は人間の社会生活を破壊してしまうと言っても過言ではないと思います。コロナ禍を期に私達の生活は、ここ一年大きく変化してしまいました。私達の生活パターンは、東日本大震災の一時期を除きほぼ半世紀、一年を通じて研修会、各種演奏会など尺八と一体になった平穏な生活を続けて来ました。ここ一年の状況で、初見先生始め多くの人が集う研修会や演奏会が、いかに有意義で楽しいものであったかということをも再認識させられたことです。そういう機会が失われて改めて実感することは、こんな状況の時を良い機会と捉え、尺八の幅広い知識の習得や自分自身の

日めくりも残り少なくなつて、今年を振り返ってみると、二月より世間が新型コロナウイルス禍に揺るがされ始め、「三密」だ、「不要不急の外出自粛」だ、「ステイホーム」だという風聞が吹きわたたり、日一日と身動きしづらくなつてきた。定年退職後の生活は、平凡な暮らしそのものだった。三月初旬には、趣味の活動は全くできない社会風潮になってしまった。そこで、約半世紀の興味に関わつたきた書の一教書生としての意地で、毎朝届けられる新聞

「コロナ禍の下の工夫」

海老根宗修

演奏技量向上に向けて努めていかなければと思う次第です。そこで、出来ることはやはり基本に立ち返ること、具体的には毎日少しの時間でも尺八を手に取り、口吹きや六段、千鳥の曲、春の海などを基に一人稽古を確実に実行することを目標にしたい。さらに、来たる演奏会に備えた課題曲の稽古もしつつ、今後お互いにコロナに感染しないことはもちろん、健康維持にも心掛け一日も早くコロナ禍が収まり、また多くの方々と合奏が出来ることを楽しみに毎日の尺八生活を続けていきます。



近況報告

宮田 光倫
コロナ禍にあっても、尺八を

の「天声人語」の論を自分流に毛筆で書いてみようと思った。半紙一枚を左手に持ち、曲げ折れないように張って、右手で筆の先を紙面に打ちあて、筆先の転折をきかせて書く。昔の人が巻紙を手を持って筆を動かすように。思いの外おもしろい字ができるのにはやみつきになり一日半紙二、三枚書き続けている。「写経」に似せて「写論を創書する」と名付けて暇な時間を楽しんでいる。

健康のために

大場 公郷

趣味として好きなように時間を過ごせるのは何とも有り難い。「二三鉢返し」、「瀧落」などの本曲、そして季節や心象をうたつた外曲などをゆつたりと吹いています。自分の癖とは知りながら、外曲の演奏になると力んで音を出すことに夢中になりがち。それがいつものことで演奏の失敗を招いている始末であるのを反省。定期演奏会の発表曲には中メリや大メリが多用されているので正確に音出しができるように時間を心掛け、技を磨き、人に聞いて貰える演奏を目指したいと思っています。



私は、五十年位前に仕事で腹部を圧迫し内臓（脾臓）破裂と

いう大怪我をし、その後数年間は貧血のため体力がなく風邪をひいたりするとなかなか回復せず大変でした。いつも頭の中にあつたのは、なんとか健康にならなければという事だけでした。健康になる為に茶道、太極拳、氣功呼吸法などをやってきました。尺八は職場仲間（掛札さん、竹内さん等）から誘われ、それから三十五、四十年間、今でも尺八だけは続けています。尺八の練習は、まずロングトーンを最初に少しやることにしています。呼吸法の中に丹田に入れた気を全身に巡らすというのがありますが、そのイメージを頭に思い浮かべ数分間フー吹いています。それだけで不思議と心が落ち着きます。健康の為に尺八をやつてきて本当に良かったと思つています。これからの人生、何とか元気に過ごしていきたいと思つています。初見先生そして皆様、これからもよろしくお願いいたします。

演奏時の心構え

和知 芳成

万全の状態です。演奏会当日を迎えたいの思いで練習してきたつもりでも、なかなかそうはいかないものです。出番が近づくとつれ不安にもなり緊張もして

きます。舞台上上がる時には、どんな結果がでてそれが今の自分の実力だ、なるようにしかならないと思うようにして、ある程度の緊張感が必要だと思えます。肩の力を抜いて、三絃、箏の音に集中するようにここを上げていきます。そうする事によって過度に緊張することを和らげてくれる様な気がします。

演奏が進むにつれ音の出が良くない、間違えた、息が続かない等いろいろな事が起こってきますが、引きずらないように気持ちを切り替えて、先のことだけに集中するように自分自身に言い聞かせるようにしています。もっと良い演奏ができるように上を目指して尺八を楽しんでいきたいと思っています。



令和二年の目標

稲田 宗栄
令和元年は尺八の師範をいた

だき、また元号も平成から令和へとかわり、人生の節目となった年でした。そして、令和二年は想像もしていなかった状況になっていきます。毎年恒例の九月の定期演奏会が中止となったことで、いつもの九月とは違う世界に生きているようでした。

そんな年ですが、幸い私には今年ある目標がありました。それは、初見先生に稽古をしていただいている竹友社曲目一覽全一三八曲がありますが、令和二年に入った段階で残り数曲でしたので、その稽古をやり遂げることでした。幸いにも定期演奏会の曲の稽古がなくなってしまったので、その稽古に集中できました。そして、十月二十二日の稽古ですべてを吹き終わることができました。

尺八との出会い

窪添 宗研

定年も間近な或る日の昼休み会社の同僚が、尺八を吹いているのを見かけ、何気なく尺八を教えて欲しいと頼んだところ、自分の尺八は民謡調だから、ち



やんとした先生に習った方が良くと言って、その先生の電話番号を書いた紙片を渡してくれました。その同僚とは、今はひたひた文化協会の民謡民舞連合会代表の柏倉豊さんの事で、その頃でも民謡の大家として知られていました。

しかし私自身尺八をどうしても習いたいという強い気持ちが無かったので、電話番号の紙片は机の引き出しに水らく入ったままになっていました。

それから五年の月日が流れ、毎日が日曜日となった或る日、机の中の例の紙切れを見つけて柏倉さんとの事を思い出し、尺八でも習ってみるかという気になり、電話をして見たところ、

初見先生に繋がったわけです。そして尺八を教えて下さる事になり現在に至っています。柏倉さんの吹いている尺八との出会いがなく、又柏倉さんが初見先生に繋いで下さらなかつたら、尺八とは無縁の生活を送っていたと思うと、尺八との出会いに不思議な縁を感じています。

近況報告

内藤 咲郷

尺八をはじめから演奏会、お稽古がない日々は初めてでした。今まで通りに口の形や音の出し方に注意しながら、まずは基礎練習を大事にしています。



この一年間は古曲を中心に練習してきました。楽譜には書かれていない事が多く、なかなか理解ができず、何度も繰り返し練習したり、先生の演奏を聞いていました。伝統的な曲を知って自分も演奏できるように、これからも頑張っていきたいと思っています。

尺八・フルート・オカリナ

井出 英郷

リタイヤ後、尺八を習い始めました。それと同時にフルートとオカリナの個人レッスンも受け始めた。それ以来十一年、三種の楽器の違いと共通点の間を楽しみ、時に苦しんだりしている。

例えば、安定した音を出すために、尺八は唇を吸口に触れるか触れないかの軽いタッチを求められるが、フルートの場合は唇をしっかりと吸口に押し付けなければならぬ。穴の数が少ない尺八はメリヤカリが重要となる。フルートはキーが多数あり、指遣のみで音程は決まり、かつ三オクターブの音域がある。オカリナに至っては、歌口をくわえて息を吹き込めば、初心者



でも簡単に音は出せる。音域は一オクターブちよつとで狭い。ただし正確な音程を出すのは至難の業である。息の強さで半音から一音はあつさり動いてしまふ恐ろしい楽器である。

そんな違いがある中でも共通点はある。それは、安定した息を保つための丹田の意識である。このことは楽器に限らず歌唱、武術、スポーツにも当てはまる。特に私はゴルフの時に再認識している。

八十歳間近になるとほぼ全ての能力は落ちる。しかし楽器演奏は別だ、と私は思う。最初は歯が立たない曲も、百回以上繰り返し返せば何とか吹けるようになるから不思議だ。つまりこの歳で上達するものがある、ということだ。このことは下り坂の人生の中で大きな励みと幸せすら感じる。そう思いつつ師匠の演奏を聴くと全く別物。音色の奥

深さに打たれる。高みを目指し、一歩ずつ歩くしかない。

師の域に

迫る日来るや

雲の峰

井出 半句

普化と明暗について

吉田 晃彰

普化禪尺八の流れを汲む古典本曲を吹く者は、中国唐時代の臨濟禪師の語録・臨濟録に書かれている「明頭来明頭打」に始まる四句の偈を、ご存知かと思ひます。

ここでは普化の狂態の内に潜む深遠な暗示の内容は、何を意味しているのかを、述べたい。

普化は大衆に向かつて鈴を鳴らし、四句の偈を唱えながら、市中を廻るのが常であった。

その偈の内容に禅仏教的解釈を加えると、次のようになる。

「相対差別の世界や無差別平等の世界、そしてその両方の世界でもない心境。境界（きょうがい）から、相手が私に問答を挑んできても、全てやつつける。否定する」。

相対界（差別）と相対を絶した絶対界（平等）は表裏一体、差別即平等・平等即差別であり、普化の心境は平等と差別の両面が併存している状態にありながら、相手の出方に即応して両面

を自在に使い分けている。

普化の常の行状を知っていた臨濟は側付きの僧を行かせ、胸倉を掴まえて「全然どんなふうにも挑んで来ない時は、どうする」と詰問させた。

これに対して、相手の僧を突き放して言った「明日は大悲院でご馳走があるから、出かけるぞ」と。全てを否定しておきながら、最後に日常底の重要性を強調するのである。

普化の胸中に迷悟凡聖の分別・理知がないから、自分の心性が即刻、融通自在に働き出した言動であった。普化の風狂性は、徹底して悟りの垢を取り、なおかつ痴人に撤した境界から来る



ものであり、慈悲心から湧き出る上求成菩提下化衆生の布教書であった、と思われる。

この普化の出現の後、時代を下った日本に於いて、歴史的な伝説の真否は別として、臨濟禪宗興国寺の開祖である紀州由良の心地覚心（法燈国師）と同じ宗派の一休宗純が、普化宗の成立に大きく影響を及ぼすのである。

近況報告

藤巻 宗子

生活様式が大きく変化し始めて約一年が経とうとする今日この頃ですが、より安全により心地豊かに暮らすために、少しずつ工夫を重ねながら日々を過ごしております。

特に稽古に関しては、演奏会や研修会等が無いので、合奏での曲の雰囲気のかみ方や呼吸の合わせ方等を学ぶ機会は減りましたが、その代わりに、自分の音とじっくり向き合う稽古に時間を費やす事が出来た事は、私にとっては何となく有意義な時間となっております。

日々前進するばかりでは無く時には立ち止まり、ゆっくり歩む事の大切さに気付く事も出来ました。

しかし、独りで学ぶ事は充実しますが、互いに励まし合う



事で得られる楽しさや満足感が無い事は寂しく思います。

先日、久々に先生のお稽古場で、少人数で合奏をさせて頂きました。たった一曲の合奏で、短い時間ではありましたが、心地よい緊張感と合奏の楽しさにとっても満足感を得る事が出来、更に自分の音と向き合う稽古に励む為の力が湧きました。

新しき一年に向けて

堀江 宗春

尺八を始めて数年が経ち、指の動かし方や譜面を読む力など少しずつ上達していること感じ一喜一憂する今日この頃。自分の音色、演奏を探しながら、日々楽しく演奏させてもらっています。



今年はコロナウイルスの影響で稽古がなくなり、稽古が再開しても落ち着くことなく、あっという間に過ぎました。多忙ながらも一年間、尺八を吹き続けられた喜びを感じます。また、新たな一年より良い演奏をできるように、頑張っていきたいです。

尺八との出会い

大和田 誠

私と尺八との出会いは、今から三十五年ほど前に遡る。私が幼稚園の頃、仕事ばかりで何も趣味がなかった父が、近所の人に誘われて民謡を始めた。そのとき父が唄と共に習っていた楽



器、それが尺八である。時は流れ、尺八とは何も関わりあわずに三十歳を越えた頃、私は実家に帰る理由が完全になくなった。ある日、アパートで荷物整理をしていたときだ。形見の尺八を手にした時、今まで一度も思ったことはなかったのに、なぜだかわからないが「音を出したい」と、そう思った。その時から何かが変わり始めた気がする。尺八をきっかけに、会社の外で仲間ができた。さらにその仲間との縁がきっかけで家庭を持つことができた。私にとって尺八はただの楽器ではなく、色々な縁を与えてくれた不思議な楽器である。演奏面では自在に音を操ることが目標だが、先生に

習ったものをどういう形で表現すれば、縁をもらった尺八に恩が返せるのか、いずれはそれを見つめたいと私は考えている。

「クイーン」と「ふー子」
岡田 守

愛犬の名は「クイーン」シェパード犬、満六歳の雌、愛猫の名は「ふー子」同じく六歳雌。「クイーン」は、とても甘い人坊で、いつもテンションの高い犬。道路を散歩する人・犬、ご飯を貰う時、「ふー子」と対面した時等々、「ワンワン・キヤンキヤン」と吠えまくり、飼い主の「ヤメ」の指示など耳に入らない。

シェパード犬を飼い始めて五十数年、これ程うるさく吠える犬は初めてですが、これも犬の性格と諦めています。「ふー子」は生後二か月位で捨てられ、我が家に迷い込んで来た猫、可哀想で飼うことになりました。

二〇一六年十一月二十四日、大変な出来事が発生しました。その日は朝から雪、「ふー子」は夜になってても帰ってこない、心配で団地内を何日も探し歩いたが、「ふー子」を探し出すことはできませんでした。行方不明になって十日目位の朝二時頃、バルコニーで「ニヤニヤ」と猫



の声、あつ、「ふー子」が帰って来たと思いき飛び起きた、やっぱり「ふー子」でした。その時の妻と感激の涙。その日は妻と娘が、つくば市の里猫を買いに行く日だったので。現在はリードを付けて毎日散歩しています。

ペットと家族の相性があるみたいです。小生と「ふー子」が相性良く、妻と「クイーン」が相性良かった。上手くバランスがとれていました。

話は変わりますが、尺八を習い始めて六年経過しました。ペットに接するように、尺八も出ていますが、上手に吹けたと思うことがほとんどありません。今冬は、部屋の温度・湿度など高めて尺八に優しい環境をつくり練習に励んでいるところです。

合奏の難しさ

石田 乃愛

私にとつての合奏の難しさは、二つあります。周りの人たちと合わせるといふことと、パートが分かれている時です。

周りの人と合わせるということについては、一人が変に間違ってしまうと、逆に悪目立ちしてしまい、曲の印象が崩れてしまいます。なので、皆で、心一つにして、演奏しなければならぬからです。

次に、パートが分かれる時というのは、私はパートが分かれると、つられてしまったり、今自分が何処をやっているのか見失ってしまうことが多々あります。なので、これからは、演奏



後にちゃんと、自分が満足出来るように、今よりももっと練習をしていこうと思います。

近況報告

藤巻 穂人

コロナウイルスの影響で、生活の仕方が大きく変わりました。尺八の稽古の仕方も変わりました。今までは、合奏をする事が多かったのですが、今は、一人で吹く事が多くなりました。



その為、自分の音を聞く機会が増えました。そこで色々なことに気が付きました。特に自分の音色が気になる様になりました。少しでも良い音を出すためには、どの様に吹いたら良いか

を考えながら吹く様になりました。なかなか上手く吹けません。これからもこつこつと練習を続けたいと思います。

尺八稽古に関する 新型コロナウイルス 感染対策

新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、四月、五月の尺八の稽古を中止しましたが、感染状況が少しおさまった六月から稽古を再開しました。感染対策として写真のような衝立を施し、換気対策として、対角線上に扇風機二台と3Dターボサーキュレーターを設置しました。その他、



除菌用アルコールを玄関入り口、待ち机上、稽古補助机に置いてあります。その後、冬場の換気対策として、加湿空気清浄機、二酸化炭素測定器、そして、更なる飛沫感染防止として、可動式フェイスマスクの装着、机下の防御幕、小型補助衝立を設置しました。



二酸化炭素測定器

小型補助衝立

令和3年度行事予定

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| ①第16回本曲練成会.....未 定 | ⑦ひたちなか市邦楽連盟演奏会.....11月21日 |
| ②東京琴古流協会演奏会.....未 定 | ⑧ひたちなか市伝統文化連盟公演.....11月28日 |
| ③第55回昇格審査会.....未 定 | ⑨東京尺八協会演奏会.....12月11日 |
| ④第42回合奏研修会.....未 定 | ⑩ひたちなか市伝統文化子どもフェスティバル.....未 定 |
| ⑤第44回定期演奏会.....9月19日 | ⑪ひたちなか市春の祭典.....2月13日 |
| ⑥茨城県三曲協会演奏会.....10月3日 | |

竹韻余滴

二年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、定期演奏会をはじめ、ほとんどが中止の憂き目にあいました。過去に、定期演奏会の中止は、二回ありました。平成六年、初代宗郷の体調不良による中止、そして平成二十三年、東日本大震災による文化会館被災による中止です。これらの時には、来年は、いつものようにできると希望が持てましたが、今回は、新型コロナウイルスの感染は、終わりが見えない不安が募っています。頼みの綱は、ワクチン接種による集団免疫かと思えます。出来るだけ早く、我々国民にワクチンを提供していただきたい。そして、竹韻社会員全員が接種し、何の心配もなく、定期演奏会を開催できますことを、願うばかりです。



令和三年度を振り返って



発行所

琴古流尺八竹韻社
ひたちなか市西大島2-3-22
電話 029-273-9144



竹韻社社主 初見 宗郷

七月頃から進めてきました。以下、活動ができた催しの内容を報告します。

三年度も、新型コロナウイルス禍で、一、二月は、稽古休止の状態でしたが、三月からは、稽古を再開することができました。しかし、九月までは、多くの会員が参加する活動が出来ない状況と判断し、定期演奏会をはじめ、合奏研修会、本曲研修会を中止にせざるを得ませんでした。昇格審査会は、師匠推薦として四名の昇格を認めました。そのような状況下、ワクチン接種が五月より高齢者向けに始まり、若い人も十月には、接種が完了するとの見込みより、十一月以降に開催するひたちなか市の芸術祭参加の邦楽連盟、伝統文化連盟の演奏会準備を



ひたちなか市邦楽連盟演奏会チラシ



邦楽連盟第40回三曲演奏会「双宴」

今回、竹韻社からは、尺八二重奏曲「双宴」を演奏しました。この曲はかなり難しい上に、九月の緊急事態宣言より、稽古日数が減少し曲が仕上がるか心配でありましたが、十月からの追い込みで、何とか間に合うことができました。その他、佳秋社中の「オーロラ」、根本社中の「八木節スケルツォ」にも助演しました。

伝統文化の公演も二年ぶりの開催で、新型コロナウイルスの影響で形を変えて十一月二十八日に開催されました。これまでの分野や芸域のことなる同志のコロナ禍では準備不足の恐れがあり、会員向けの温習会となりました。竹韻社からは十人が参加し、本曲「志図の曲」を選曲しました。伝統文化の通常の公演では、本曲は一般向けの曲でなく、飽きを伴う恐れがあり選曲を避けていましたが、尺八本来の曲を紹介したく、あえて本曲を選曲しました。この曲は、煩惱、妄想と争い、一切の修業を成就する意味があり、本番も自分の心を統一し、無の境地に近づき、静かに尺八を吹くことができました。



伝統文化連盟温習会竹韻社「志図の曲」



伝統文化連盟温習会佳秋会「オーロラ」



伝統文化連盟温習会「春のことぶれ」

以上、三年度も、新型コロナウイルスに惑わされた一年でしたが、四年度は、早く新型コロナウイルス感染が収まり、自由闊達な活動ができるとともに、多くの会員の皆様

また、二月の「春の祭典」向けの演目「春のことぶれ」は、尺八本曲「一二三鉢返し」の調の一節より始まり、箏曲「みだれ」、大正琴の「人形の家」、磯節保存会の「都々逸」のメドレー形式の構成になっていますが、「みだれ」は途中ばらつきがありました。歯切れの良いスピード感のある演奏をすることができました。

この「春のことぶれ」は、春の祭典の中止で、多くの方に披露できなかったのが大変残念でありました。

十二月十一日(土)、東京証券会館において、尺八協会主催第七十七回琴古流尺八演奏会に出演しました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大のため出演できず、二年ぶりの出演に自分の中では、一区切りの感がありました。

実は昨年の演奏会に「若菜」を演奏するつもりで、令和二年四月から稽古を開始し、一年半以上吹き続けたこともあり、ほとんど暗譜できていました。本番は楽譜を見ての演奏でしたが、全然気負いがなく、自分なりに良くできた演奏とすることができました。

と会えることを楽しみにしています。



尺八協会「若菜」

〈本曲研修会〉

1. 日時：令和4年4月24日(日) 13時集合
2. 場所：ワークプラザ勝田
3. 会費：2,000円(学生1,000円)
4. 正式案内：3月下旬
5. 応募締切：4月中旬

時間帯	研修室 2
責任者	前田
13:00~13:15	集合、挨拶
13:15~15:00	月の曲、芦の調
15:00~15:15	休憩
15:15~16:45	厂音柱の曲、寿調
16:45~17:00	閉会、解散

四年度研修会のお知らせ

四年度研修会として、本曲練成会、合奏研修会を左記の通り計画しています。

なお、新型コロナウイルスの影響を考慮し、昼食を避けた午後からの開始とします。新型コロナウイルスの影響が大きい時には中止とします。

〈合奏研修会〉

- 1. 日時：令和4年6月26日(日)
12時50分集合
- 2. 場所：ワークプラザ勝田
- 3. 会費：3,000円 (学生1,000円)
- 4. 正式案内：5月初旬
- 5. 応募締切：5月下旬

時間帯	全体	生田流A	山田流	新曲	生田流B
			高秋社中	熊倉社中	小林社中
	研修室2	研修室2	和室	研修室3	視聴覚室
責任者	司会：根本	遠藤芳・萩原	根本・福元	武藤・前田	遠藤・大場
12:50~13:15	準備・挨拶	調弦	調弦	調弦	調弦
13:15~14:45		みだれ	小督の曲	雪月花によせて (8寸管)	新浮船
14:45~15:00	休憩	調絃	調絃	調絃	調弦
15:00~16:30		茶の湯音頭	岡康砧 県芸術演奏曲	比良・春の訪れ (6寸管・8寸管)	西行桜
16:30~16:45	閉会、片付け				

第五十五回
昇格審査会

今回は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各師匠の推薦で合格といたしました。

日時 令和三年五月
場所・各師匠宅

資格 合格者氏名 師匠名
皆伝 吉田 晃影 遠藤
準師範 横川 典彰 遠藤
師範 井出 英郷 宗郷
師範 初見 和郷 宗郷

お弟子の上達に思う

遠藤 宗郷

新型コロナウイルスの影響で、二十九年、三十年と二年間、定期演奏会や各種研究会・勉強会など中止になり、目標を失いかけていた時期もありました。昇格審査会も中止になりましたが、今回特別処置により横川・吉田両氏は、準師範・皆伝をいただき、大変感謝しております。

実は、お二人とも二年前より審査会に目標をおいて練習しておりました。例年ならば、発表会や研究会をやる中、審査会の練習をするのですが、今回は審査会の曲のみを集中して練習いたしました。何曲も同時に練習するのも勉強上達になります。一曲を集中して練習すること

も大変な力をつけることもわかりました。お二人の尺八が総合的に格段に上がったのが分かりました。

私事ですが、仕事をリタイアして約一年が過ぎました。運動不足を懸念して、歩き始めました所、歩き過ぎて膝を痛めてしまいました。友人がそれを見て自転車(ロードバイク)を勧めてくれました。乗ってみると意外と楽しく、気が付くと二十km↓三十km↓五十kmと走行距離が増えていきました。たまたま自宅のすぐそばが江戸川で、堤防土手がサイクリングコースになっていきます。川を下れば海まで五十km、上れば群馬県の本庄市までおよびます。

最近では、柴又の帝釈天まで行き、うなぎを食べるのが楽しみです。自転車は運動不足の解消にもなりますし、その上、心肺能力もかなり上がったように思います。尺八を吹いて持続力がついてきたように思います。

来年こそは、演奏会や研究会ができますよう心待ちしています。会員の皆様に会える日を楽しみに！



苦節十二年

井出 英郷

「よし、吹けている。合格！」との師匠の一言で、一瞬体が宙に浮いた感じがした。十二年前に尺八教室のカンパンを見つて入門し、苦節十二年。まさか八十歳間近で師範合格とは想像もしなかった。始めたころは到達し得ない夢のまた夢と感じたものだ。

以前、努力の習慣化について本誌に投稿したことがある。それが出来たのかと思うが、待てよ、それに見合う音色と奏法が本当に身に付いたのか、という疑問が同時に湧いて来る。どう控え目に聴いても、師匠や先輩方の音色と並び評価できるレベルでないことは自分が一番分かっている。

技術面で何が一番変わったかと言えば、ツのメリが自然に出るようになってきた気はする。



師匠の模範演奏を録音して、本曲を徹底的に稽古したためである。

一方、相変わらずの弱点はテンポの速い曲で指運に気を取られて息が浅くなり、時間の経過と共に音が途切れること。体と唇が硬直しそうな時の回復が課題と思っている。これは個人レッスンを継続しているフルートの奏法でも同じこと。丹田で呼吸支え、柔らかな指使いにつなげる他はない。

芸の道に限りはない。理想とする深く伸びのある音に到達できるかどうか。加齢による衰えを最小限に抑えるには、今後の努力次第だろう。しかしこれだけは言える。ここまでやってきて、師匠や先輩方の音色の素晴らしいさを感じられるレベルにはなってきた、と。

もしこの世界に足を踏み入れなければ、フレーズ間の微妙なメリ音の折り込みや、野太いびりびりするような口音と澄み切った甲音の素晴らしいさに気づきはしなかったろう。自分が出来なくとも、上級者の偉大さを、身をもって認識できるように。ただ、この十二年の体験は貴重であったと思っている。

ここまで導いて下さった師匠と先輩方に深く御礼を申し上げます。

師範をいただいて

初見 和郷

この度、無事、尺八の師範になることが出来ました。これもひとえに父である初見宗郷師匠の力が入った稽古をはじめ、皆様の日々の努力から生まれた演奏に共鳴させていただくひとときが支えであったことは、言うまでもありません。

私自身としては、東京を拠点に活動しております音楽制作において、恐縮ながら、某テレビ番組のエンディングテーマ曲に採用していただき、ご尽力いただいた方々に感謝しております。その先が見えなくても、前に進み続けると結果が得られるということを実感した一年の始まりでした。



まだまだ未熟ではございますが、発展途上と信じ「音の道」で自分を磨きながら進めるよう

引き続き精進していきます。今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

準師範になって

横川 典彰

昨年は、いろいろな行事が中止になりました。今年は、審査会が実施されると思っております。二年に渡り、審査会の課題曲を練習してきました。これ程、真剣に打ち込んだことはありません。遠藤先生の熱意が発奮させたのかもしれない。その甲斐あってか、難しい曲でしたが、テープを聴いて、独りで演奏できるようになってきました。審査を受けられず残念ですが、免状をいただきありがとうございます。

準師範の名に恥じないよう、尺八奏者として、精進していこうと思います。

皆伝の修了免状を

いただいて

吉田 晃彰

新型コロナウイルスが流行し始めて、約一年半が経過。一年位経てば改善するものと思われましたが、一向に止まらず、翌年の昇格試験までも取り止めになってしまったのかと、懸念しておりました。

幸いにして、有事の際の特別免除というご配慮を賜り、皆伝の免状をいただくことができました。大変感謝しております。今回のコロナ禍の事態の中でも、試験曲や発表曲以外の曲も多く習得させていただいており、マイナス面ばかりではないと感じております。

私事になりますが、歯が悪いため、尺八が吹けなくなる前に少しでも曲数や技能の向上を計ることを心掛けております。

尺八の練習は自分なりに習慣化しており、毎日吹いています。尺八を吹いている時の竹管に伝わる音響(倍音)が両手の指先に伝わり、その感覚が心地良さを感じ、毎日吹く励みになっていくようです。

以前に読んだ角田博士の「日本人の脳」という著書によれば、西洋人は、西洋楽器音も邦楽楽器音も同じ右脳の音楽脳・芸術脳で聴き、一方日本人は西洋楽器音を右脳で、邦楽器音(尺八の音も含む)は、波・風・雨音・小川のせせらぎ・虫の音等の自然音を聴く時と同じ左脳(言語脳)で聴くそうです。

尺八の音が、小川のせせらぎや虫の音等の自然音と同じ左脳領域で受容されるので、私としても尺八の音に西洋楽器音を聴く時とは異質の親応や癒しが感じられると思います。

尺八を吹くことは、健康や脳の老化防止に良いと言われています。今後とも精進いたしますので、引き続きご指導の程、よろしくお願いいたします。



令和4年度行事予定

- ① 3月21日 東京琴古流協会演奏会(欠演)
- ② 4月24日 第16回本曲練成会
- ③ 5月15日 武藤宗林氏箏・尺八デュオコンサート
- ④ 5月22日 第56回昇格審査会
- ⑤ 6月26日 第42回合奏研修会
- ⑥ 9月18日 第44回定期演奏会
- ⑦ 10月2日 茨城県三曲協会演奏会
- ⑧ 11月13日 ひたちなか市邦楽連盟演奏会
- ⑨ 11月27日 ひたちなか市伝統文化連盟公演
- ⑩ 12月10日 東京尺八協会演奏会
- ⑪ 未定 ひたちなか市伝統文化子どもフェスティバル
- ⑫ 未定 ひたちなか市春の祭典

竹韻余滴

三年度も、新型コロナウイルス感染症拡大のため、竹韻社の定期演奏会をはじめ、ほとんどが中止の憂き目にありました。しかし、ひたちなか市芸術祭の邦楽連盟の公演は、ちょうど新型コロナウイルスが収まっている時期にあり、開催することができました。この時に感じたことですが、開催するという強い意志が無いと開催に向けての準備に滞りがでるといふことです。

四月の計画時には、まだできるかどうか確信できる状況でなく、七月から九月かけての第五波の時には、かなりの不安もありましたが、演奏会をやるのだという強い信念をもって準備に当たっていました。普通、ここで挫けて断念するところでしたが、ここで休むと後の立ち上がりが難しいと社中代表者の強い意志が勝りました。

この準備もあって、十一月のコロナの収まり時期に演奏会を開催することができました。準備していなければ、できなかったと述懐しました。まさに、「備えあれば憂いなし」か。